

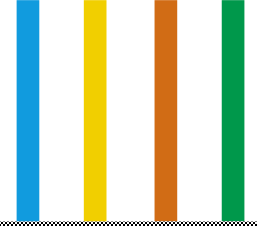


第58回学生生活実態調査

調査結果の特徴と これからの大学生活

2023年3月1日
全国大学生生活協同組合連合会
専務理事 中森 一郎

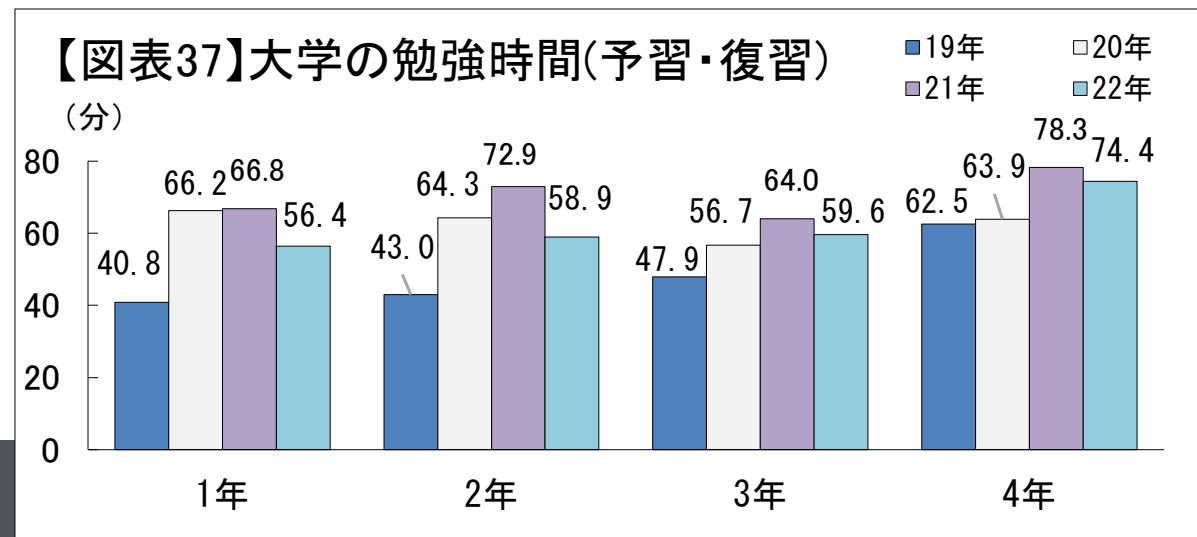
全体的な特徴



- ①2022年度は対面講義が大幅に復活し、様々な行動制約が緩和される中で、**コロナ前の大学生活への回復傾向**が見て取れる。
 - ・登校日数、行動費、アルバイト活動等の回復／勉強時間は増加傾向
- ②しかし完全なコロナ前への回復には至らず、**コロナ禍での大学生活の変容**が一方で明らかになりつつある。
 - ・回復の鈍い「サークル加入率」／学内長時間滞在の減少
- ③Withコロナの「新しい大学生活」に向けて、**新しい大学生の価値観**が垣間見える結果となっている。
 - ・「タイパ」重視の傾向／大学生活の重点の変化
- ④**個々の大学生の「学生生活充実度」に留意**する必要があるのではないか。
 - ・1年生の充実度は最高値・・・制約された高校生活からの緩和
 - ・充実度の低い学生は、引き続き対人関係や心身の不調に悩みを持つ傾向

登校日数の回復／変わる勉学生活

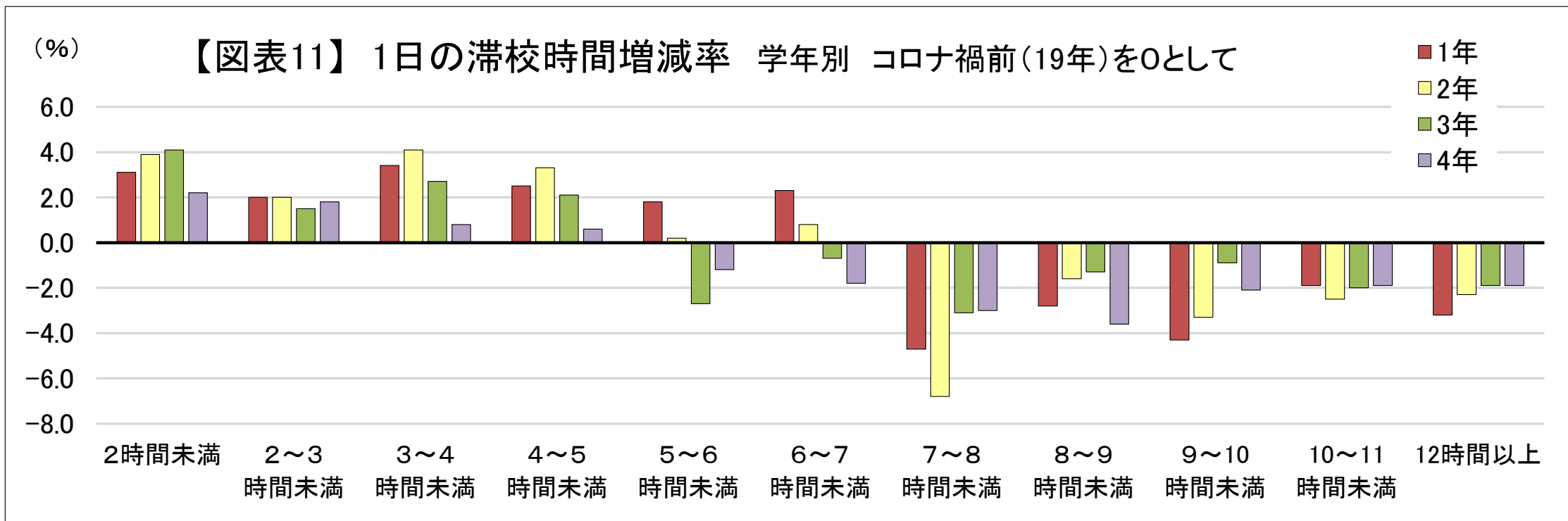
- 一週間の登校日数は3.9日(前年差+1.1日／19年差▲0.5日)
 - ただし大学毎に格差がある
- 「同じ日に対面講義とオンライン講義がある」ことへの不満
 - 「同一日にオンライン授業と対面授業が連続したりすると、対面授業に間に合うために早く家を出て大学の教室でオンライン授業を受けることがあります。友人が通う大学は曜日によってオンライン授業か対面授業を分けているようなので、**そのシステムだともっと楽だろうな**と思います。」(文科系／2年／女／自宅外)
- 一日の勉強時間はコロナ前に比べ増加



「学内に長居しない大学生」の増加



- キャンパス滞在時間は明らかに短くなった



戻ってきた大学生活／変わる大学生活



- アルバイト就労率は79.8%と着実に回復／アルバイト収入はコロナ前水準に

- サークル加入率の回復は鈍い

①サークルに現在所属している割合 (%)

	19年	20年	21年	22年	22年と19年の差
1年	82.8	48.7	72.6	73.5	-9.3
2年	74.1	69.9	62.1	63.2	-10.9
3年	63.2	62.4	59.8	51.7	-11.5
4年~	49.5	46.4	44.7	43.4	-6.1
合計	68.1	56.9	59.9	58.4	-9.7

- 正課活動に比べまだ**制約が残る課外活動**

- **組織力の低下**が勧誘活動に影響

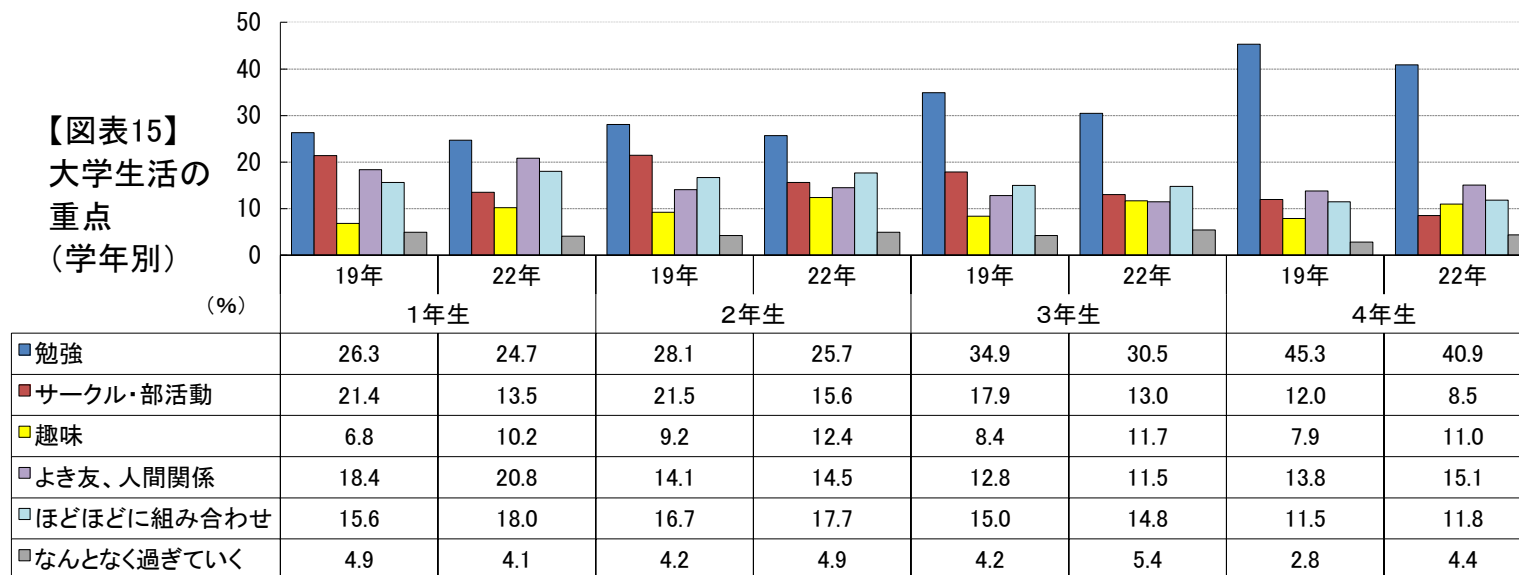
- 「サークル・部活動が大学生活の重点」

- 19年差▲5.7ポイント

- 「**趣味**」を大学生活の重点とする学生の増加

- 推し活／SNSでのつながり

【図表15】
大学生活の重点
(学年別)



特別費の支出傾向に大学生生活変化のヒントが

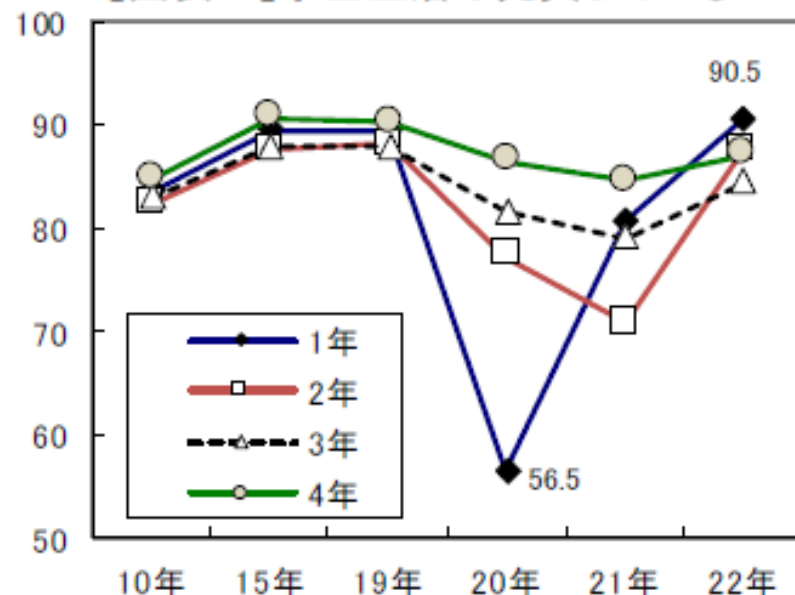
【図表7】特別費の平均額・実施率(22年4月～9月)と予定(22年10月～23年3月)

	実額平均 (円)				有額平均 (円)				実施率 (%)				予定あり (%)			
	19年	20年	21年	22年	19年	20年	21年	22年	19年	20年	21年	22年	19年	20年	21年	22年
合宿代	19,400	3,400	6,100	14,200	47,100	25,400	29,900	40,800	35.0	11.2	17.1	29.2	21.2	15.4	17.1	20.8
国内旅行	29,600	15,800	21,500	39,700	56,400	44,300	52,300	67,600	44.6	29.3	34.3	49.3	42.3	36.9	38.9	44.8
海外旅行	24,700	1,100	400	5,000	143,900	115,800	117,200	229,900	14.6	0.8	0.3	1.8	18.6	1.3	1.4	4.7
帰省代	11,200	7,200	8,500	10,600	26,900	23,100	25,000	26,400	35.2	25.8	28.4	33.9	30.9	30.5	29.6	32.7
留学	12,900	2,600	700	5,200	327,800	323,100	112,800	450,600	3.3	0.7	0.5	1.0	3.0	0.8	1.0	1.5
運転免許	47,100	57,100	51,900	52,800	252,800	264,400	259,100	264,100	15.8	17.8	16.7	16.8	6.1	6.1	6.7	6.3
各種スクール	5,900	7,600	10,000	8,800	131,400	74,600	81,400	84,600	3.8	8.4	10.3	8.7	2.4	5.2	5.9	5.3
高額商品	15,500	30,700	28,200	23,700	83,500	107,200	105,600	105,300	15.7	23.6	22.3	18.9	7.3	8.4	8.9	7.1
衣料品	18,400	18,300	19,900	21,800	32,000	30,300	32,500	31,800	48.9	49.7	51.1	57.5	34.0	40.6	41.5	44.0
引越し	1,900	2,600	2,700	2,900	80,600	111,800	117,600	144,600	2.0	1.9	2.0	1.7	5.8	6.4	6.9	6.8
就職活動	9,200	5,800	5,500	6,100	44,600	31,600	30,800	33,500	17.6	15.2	14.9	15.4	9.9	11.5	10.7	9.5
その他	2,100	2,200	2,100	2,200	73,200	83,200	63,800	68,100	2.4	2.2	2.7	2.8	2.0	1.5	2.1	2.0
合計	197,800	154,600	157,500	193,000	207,900	172,700	173,600	203,900								
自己負担額	99,500	66,200	71,600	97,200	117,400	87,200	92,100	116,200								
負担率(%)	50.3	42.8	45.5	50.4	56.5	50.5	53.1	57.0								

異なる「大学生活」の受け止め

- 1年生の充実度は比較できる83年以降**最高値**(90.5%)
 - 文化祭も、体育祭も、修学旅行もなかった高校生活⇔対面講義が回復した大学生活
- 3年生(2020年度入学者)も84.4%まで回復するも、学年別では一番低い
 - 「コロナ禍での大学入学だったため、初めの頃は友達が全くできず焦りがありました。しかし、オンライン授業で友達を作り、**対面授業が始まってからその友達と仲良く過ごすことができ**、充実した日々を送っています。(理工系/3年/男/自宅)
- 3・4年生に比べ、1・2年生の方が**オンライン授業の大学生活に適応**している傾向

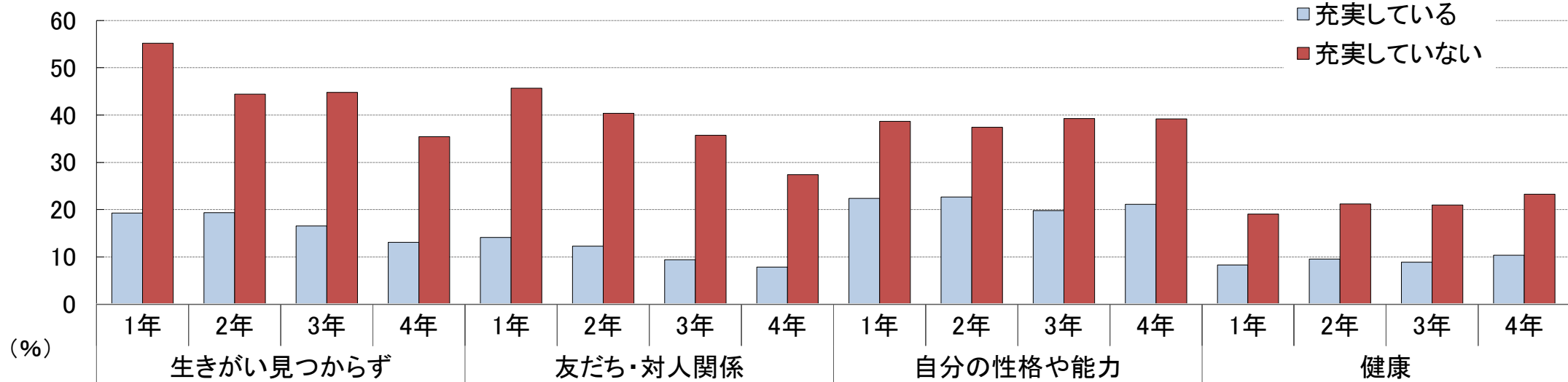
(%) 【図表13】学生生活は充実している



異なる「大学生活」の受け止め

- 大学生活が「充実していない」と感じる層は、対人関係や健康面での悩みが多い

【図表27】気にかかっていること 「充実している」「充実していない」をそれぞれ100として



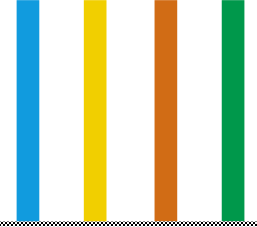
※「充実している」は「充実している」＋「まあ充実している」。「充実していない」は「あまり充実していない」＋「充実していない」。

その他



- 暮らし向きは「**やや悪化**」と感じている
 - 今後物価高騰の影響などが本格化の懸念
- 昨年7月の参院選に「投票した」学生は**51.8%**
- 成年年齢引き下げ後の低学年層の消費者トラブル増加傾向は見られない
- 朝食摂取率は大幅増加
 - 対面講義復活により生活習慣に変化？
- SNS利用は半分以上が「**3時間以上**」
- (電子書籍を含む)読書時間は微増傾向／「0分」は**46.4%**

調査結果を受けて



- 「今どきの大学生」とは語れない状況になっている
 - 「講義＋サークル＋アルバイト」で大学生活は語れない
 - 学年による違い／充実度による違い／価値観による違い
- 大学生協として、多様な大学生活を相互に交流し、一人ひとりに気づきが生まれることを通じて、組合員のよりよい大学生活づくりを目指したい